

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546 FAX03(3207)3918
発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志



エルサレム、エッケ・ホモ教会

「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることが。しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言うておくが、むしろ分裂だ。今から後、一つの家に五人いるならば、三人は二人と、二人は三人と対立して分かれるからである。父は子と、子は父と、母は娘と、娘は母と、しゅうとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、対立して分かれる。」
(ルカによる福音書12章49～53節)

平和メッセージ

ルカによる福音書12章49～53節

血肉の絆を超える絆がある



岡本知之

火と洗礼

「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである」と主は言われる。キリストの到来を平和の到来と考えたいわれわれを、この言葉は十分に狼狽させる。さて、ここに言われる火とは一体何のことか。

この言葉の直後に「その火が燃えていたら」と言うのであるから、イエスが来られたとき、この燃えてい

宗教か信仰か

唐突なようであるが、私たちは「宗教者」ではない。「キリスト者」である。「宗教」は概念であるが「キリスト」は人格である。「概念」は操作の対象であるが「人格」は出会いの対

キリストの到来の結果としての分裂

イエスと出会い、このイエスをキリストと知り、告白すること。そこから、家族内の分裂が始まると主は言われた。つまり「イエスとは誰か」、その判断を巡って運命共同体である筈の「家族」が、分裂しかつ対立する。

しかし、考えてみればこれは当然のごとであり、全く以て意外なことではない。イエスをキリストと言うか、それとも唯の人と言うか、「家族」という血肉の

あるのであるが、私としては大方の理解と同じく、これが主の十字架を指すことにはほら間違いのないところであると思う。とすれば、イエスが燃えていてほしいと願った火とは、主の十字架によつてのみ担われ得るところの、

人々の罪を清めるための火であつたと言えるのではあるまいか。主の十字架が、この火の役割を果たすことになるのである。いかなる意味においてか。血肉の運命共同体たる「家族」に、「分裂をもたらす」ことに

における真実そのものに他ならない。

つまり、今日流行の「宗教多元主義」という概念は、その本質において、この「信仰」とは全く関係のない概念なのである。この両者を置換可能な事象であると考えるのは、完全なカテゴリー・エラーであり、キリス

と理解し、主の復活を「新しい命の關係の始まり」と、これもまた正しく理解してきたのではなかったか。

ここで信仰とは、私たちが主キリストに対する一方

違いを超えるもの

しかし以上のことは、決してわれわれを絶望させるために語られた言葉ではない。子から親への家庭内暴力や、親から子への虐待、さらには夫婦間の殺し合いの頻発は、今日における家族の血肉の結合の限界とそ

の破綻を、われわれに突きつけるものであろう。その現実の中に、主は血肉の絆を超える絆があることを提示されるのである。十字架に死に、人に命を与えるために、苦しい洗礼を主は受け給った。まさに

『教団新報』を読もう！

『教団新報』は、教団・教区の動き、また宣教の現場における動き等、分かりやすくスピーディーにお伝えしています。役員、教会員の方にもご購入くださるようお勧めください。

◎年間購読料 1年分 5,000円
◎購読申し込み お近くのキリスト教書店または『教団新報』編集部までお申し込みください。
(振替 00140-9-145275)



▼やや混雑したホームで目撃した。30歳くらいの女性が、階段を駆けて上ってきた。掲示板を見ながら、振り返った。立ち止まり、振り返った。その女性の肩には、大きなバッグを振り回した格好になつて、ホームの最前列にいた老人の背中をたたいた。老人は少しよろよろ、半歩前に出たが、それ以上は避けられなかった。老人は何かと、それ以上は避けられなかった。老人は何かと、それ以上は避けられなかった。

「神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、その十字架の血によつて平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をたたく御子によつて、ご自分と和解せられた(コロサイ1:19～20)のである。主が地に投げ入れられる

(西宮教会牧師、
教団総会副議長)

聖書協会世界連盟の2010年世界総会、韓国ソウルで開催



UBS 総会場、ソウルの江南地区にある COEX 会議センター

神の言葉、世界のための命

初のアジア地区開催

聖書から方向と力を与えられる

聖書協会世界連盟（United Bible Societies）の2010年世界総会が、9月20日（月）から24日（金）まで韓国ソウルの江南地区にあるCOEX会議センターにおいて開催された。

聖書協会は1804年に設立された英国聖書協会（British and Foreign Bible Society）に始まり、爾来世界各国に設立され、戦後世界連盟を結成して、現在150の各国聖書協会を擁し、聖書の翻訳、出版、頒布にあたっている。2004年に創立200年を記念して、発祥の地ウ

エルズで世界総会が開催されたが、今回はアジア太平洋地区で初めて開催される総会となり、約400名の代議員が出席した。

総会の主題は「神の言葉、世界のための命」で、「わたしが来たのは、あなたがたが命を受けるため、しかも豊かに受けるためである」（ヨハネ福音書10：10、Good News Bible）の聖句が掲げられた。

00年のキリスト教人口は欧・北米が82%であったのが、今は38%。2050年には27%になる。南半球のキリスト教はカリスマティックでセクト・タイプであり、癒し、悪霊からの解放、霊的熱狂が顕著である。北では諸宗教間の対話・交流がみられるが、南では、特にイスラムとの関係において競合状態が激化している。これまではキリスト教会は「一、聖、公同、使徒的」と言われたが、今後の特徴は「地球的、非妥協的（アジアでは寛容、ベンテコスタル、外向的）となる。このような時期に、教会にとって重要なのは、初代教会の出発点に帰ることであり、そのために「聖書」から方向と力を与えられることである。

第2の「文化」に関しては、フィリピン（コミュニケーション・トランスフォーメーション・センター所長のメルバ・パティラ・マカイ博士（女史）が担当し、「われわれが奉仕する世界ー聖書協会の宣教努力に対するグローバル化の衝撃」と題して講演した。これは北半球のインテリは、グローバル化のインテリの時代を「キリスト教世界後」「世俗化後」の時代など把握してきたが、それは歴史の表面的な解釈で、ラテン・アメリカの人々が「歴史の下層」と呼んでいるところから世界を見ること、イスラム、ヒンズー、キリスト教などの原理主義に見られるように「世界の脱世俗化」（ピーター・ベ

ルガー、すなわち、古典的な宗教の再興が起きている。人類は意識の深層において伝統的な宗教文化に根を下ろして生きているのである。現代人はハード面では高度情報社会に生きているが、ソフト面（心の文化）では伝統的な宗教に育まれて生きているのである。このような状況において大切なことは、それぞれの宗教の深みに徹することである。

キリスト教の場合でも、近代の世界伝道によって、アジア、南米、アフリカなどがキリスト教化されたが、それは表面に止まり、民衆の心の深層は原始宗教的な状態に止まっている。預言者の深化が課題である。その時、グローバルなキリスト教の教会的交わりが、多様性の中の一致、一致の中の多様性を持つ、相互受容と相互訓練の

共同体として大切である。第3の「若者」に関しては、フランスのテゼ共同体の統括者ブラザー・アロイスとのインタビューが紹介され、ケニアのナイロビ・バプテスト教会のムネンギ・ムランディ牧師の「ユース・ミニストリーと福音の伝達」と題する報告があった。アフリカでは25歳以下の人口が全体の50%を占めるといわれるが、我々にとっても、青年自身を主体とした青年伝道の緊急性を改めて、感じさせられた。

総会では毎朝礼拝を守り（世界連盟の4つの地域である、アジア太平洋、ヨーロッパ中東、アフリカ、アメリカが順次担当、午前中）、今日と明日の世界と教会を展望し、今後の活動の示唆を得るために、3つの基調講演がなされた。「教会」「文化」「若者」に関しての講演を聴き、それぞれ2名の代議員からの応答のスピーチがあった。

第1の「教会」を担当したのはベンシルベニア州立大学人文学教授フィリップ・ジェンキンス氏で「変化するキリスト教世界における聖書」と題するものであった。世界のキリスト教は1900年に総人口の3分の1を占め、この割合は今世紀に入っても変わらない。19

い。しかし全体の人口の増大は著しく、1900年には16億であったのが、現在は69億、2050年には92億に達する。特に南半球の人口増大は著しく、1900年と2010年の間に、ヨーロッパは25%増であったのに対して、アフリカは4930%、ラテン・アメリカは877%増であり、アフリカはクリスチャンが19%から46%になった。19

は、前総会からの6年間に、旧新約聖書の頒布数は1億5978万9878冊（1年平均約2700万冊）、分冊まで含めた全頒布数は19億7801万8030冊（年平均3億3千万冊）であった。地域別では、この5年間の頒布の増加率は、アメリカ地区が42%、アジア太平洋地区が34%、アフリカ地区が16%、ヨーロッパ中東地区が8%である。現状と課題。UBSに加

わっている各国聖書協会は150に及ぶが、財政的に自立して他の協会を支援しているのは40余である。従来は支援協会が全体をリードする傾向があったが、次第に全協会の合議形態と、

英国に事務所を持つ世界事務局中心の運営体制が強化されてきている。これは支援を受ける協会のガバナンス参加が高くなるので、人的、物的リソースの確保と増加に努力している支援協会側からは、その有効な管理と運用が強く求められる。

この二つの運営体制をどう均衡させてゆかが当面の課題である。日本聖書協会は諸教会の支援と特に聖書頒布によって、運営の自立と支援協会としての責任をはたしており、このような動きが被支援協会の間に拡大することが望まれる。（大宮博報）

全頒布数は年3億3千万冊

総会代議員は、省察分団と選択分団（聖書協会の課題18項目の中から選択）に出席し、そこから世界理事会に対し今後の活動のための提案を採択した。UBSのアイデンティティとエトス」としては、これまで原則としてきた聖書の翻訳、出版、頒布に加えて、解説、

再調達」では、厳しい聖書資金の調達のため、南の諸教会が資金受容だけでなく募金にも努力すること、北の諸教会が従来の形（主として基金の運用と献金）以外の資金入手をも努力すること。「文化と文化変容」では、経済的に困難な南に対する資金援助の継続と高度技術化の下で霊的貧困化する北の対応強化。イスラムの強大化に対応して、その文化的な文脈を考慮した聖書の表現を検討。移民と難民のための聖書。非識字層、視覚・聴覚の困難な人への聖書。IT文化に即応

する聖書。若者たちへのアプローチ」の努力などが提案された。

人事として、UBS総会

は、前総会からの6年間に、旧新約聖書の頒布数は1億5978万9878冊（1年平均約2700万冊）、分冊まで含めた全頒布数は19億7801万8030冊（年平均3億3千万冊）であった。地域別では、この5年間の頒布の増加率は、アメリカ地区が42%、アジア太平洋地区が34%、アフリカ地区が16%、ヨーロッパ中東地区が8%である。現状と課題。UBSに加

わっている各国聖書協会は150に及ぶが、財政的に自立して他の協会を支援しているのは40余である。従来は支援協会が全体をリードする傾向があったが、次第に全協会の合議形態と、

英国に事務所を持つ世界事務局中心の運営体制が強化されてきている。これは支援を受ける協会のガバナンス参加が高くなるので、人的、物的リソースの確保と増加に努力している支援協会側からは、その有効な管理と運用が強く求められる。

この二つの運営体制をどう均衡させてゆかが当面の課題である。日本聖書協会は諸教会の支援と特に聖書頒布によって、運営の自立と支援協会としての責任をはたしており、このような動きが被支援協会の間に拡大することが望まれる。（大宮博報）

また、共同訳聖書の作製。教会および関連団体との密接な提携。「使命のための資金

活動報告によればUBS

第1に全協会の合議形態と、

英国に事務所を持つ世界事務局中心の運営体制が強化されてきている。これは支援を受ける協会のガバナンス参加が高くなるので、人的、物的リソースの確保と増加に努力している支援協会側からは、その有効な管理と運用が強く求められる。

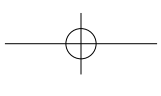
この二つの運営体制をどう均衡させてゆかが当面の課題である。日本聖書協会は諸教会の支援と特に聖書頒布によって、運営の自立と支援協会としての責任をはたしており、このような動きが被支援協会の間に拡大することが望まれる。（大宮博報）

日本聖書協会理事長

UBS 総会。壇上は世界理事メンバー、司会・報告は理事長ノラ・ルチェロ氏



日本聖書協会代議員、氏名は文中



派遣宣教師の活動状況を把握し、対応

第6回世界宣教委員会

第36総会期最後の第6回世界宣教委員会が10月4日、教団会議室で開かれた。いつものように、傘下の各委員会の報告のほか、派遣宣教師の活動状況、国内各地にいる海外からの受け入れ宣教師の消息、海外からの訪問者、エキューニカル

な会議出席報告等、多くの報告と協議に時間を費やした。主な協議事項は、(1)派遣宣教師の任期延長、辞任の承認◎三浦照男宣教師(インド・サムヒギンボトム農業技術大学の働きを2013年9月30日まで、◎岡田則子宣教師(スリラ



宮川裕美子宣教師の労をねぎらう

ンカ・ランカ神学大学)2011年7月まで、延長することを承認。◎林田義行宣教師(台湾・高尾日本語教会)の任期延長については条件を満たすまで保留とした。◎アメリカ・パイン合同メソジスト教会の藤浪敦子宣教師は任期を満了し10月3日に帰国。同宣教師の辞任を承認。◎アメリカ・ハワイ・ウエスレー合同メソジスト教会日本語部上田創宣教師、12月末をもって辞任することを承認。

宗教活動に従事する場合などの状況があり、受け入れ宣教師について教団の基本方針を検討する必要があることが協議された。宣教師人事委員会で検討したたき台を作ったうえで次期本委員会でも検討するように申し送ることにした。

(秋山徹報)

側面からサポート、円滑な活動を期す

第3回宣教師支援委員会

第36総会期第3回宣教師支援委員会が、10月7日(木)14時30分、教団会議室において開催された。

出席者は、荒川朋子(アジア学院)、杉森耀子(小田原十字街教会、ネイサン・ブラウネル(アメリカ改

内宣教師約100名、及び海外の退任宣教師に向けて9月末に発送している。その他の協議事項として、事務局から提出された2009年度会計報告は原案通り承認された。

北支区 第37回教団総会議 員選挙について 山本 裕司

私たちは今年度の北支区総会において第37回教団総会議員支区推薦者8名を選挙しました。これは「第2回教団総会議員選挙」のためであり、東京教区総会ではこれを参考に、各支区4名ずつ計20名を選挙し、第1回選挙と合わせて計54名の教団総会議員を選出するのです。ところが西南支区などに広く配布された「2010年東京教区選挙推薦状」なる多数派工作ペーパーは、常置委員選挙、第1

教区 コラム

回選挙だけでなく、この第2回選挙に対する指示も行いました。そこには「東、西南、千葉各支区はそれぞれの参考候補の上位2名」と指図すると同時に、北支区に關しては北支区が推薦した者以外の4名の名が記されてありました。その結果、第2回選挙において北支区総教区総会においては、主から託された一票を、一部の人間の書いたペーパーに従って用いるのではなく、聖霊の示しに従い御心が実現する総会を求めていくことはあります。東京教区北支区長

第36総会期第3回宣教師支援委員会が、10月7日(木)14時30分、教団会議室において開催された。出席者は、荒川朋子(アジア学院)、杉森耀子(小田原十字街教会、ネイサン・ブラウネル(アメリカ改

が担当している次の3項目を中心に協議をおこなった。①宣教師訪問今年5月から8月の間、北海・奥羽・九州教区を中心に加藤幹事が宣教師をお訪ねしたとの報告があった。

常設委員会
〈宣教委員会〉
張田眞(招)、加藤幹夫、田中かおる、白戸清、望月修、具志堅篤、【福井博文】、《東島勇人》
〈教師委員会〉
小宮山剛(招)、岸俊彦、大友英樹、堀真知子、井ノ川勝、【宇田眞吉澤永】、《森下耕白井進》
〈算決算委員会〉
伊藤瑞男(招)、山上清之、長島恵子、外崎孝、津村正敏、宮下重康、【森川恵美子】、《小平正宣》

2・11メッセージ

紀元前660年2月11日が建国の日と考える人は、少なくとも古代の歴史の専門家の中ではないでしょう。紀元前660年2月11日に、奈良の橿原に、強力な統一国家が建国され、天皇という祭祀と政治を司る大王が存在したと考えることはできないからです。統一国家の形成、天皇制の確立、天皇という名称の使用は、紀元645年(乙

日常生活の中で語られ用いられようとする時には、何らかの意図が存在してしまうといことです。その意図に賛同できるならば、その人にとってその意図は感謝と喜びとなるでしょう。しかし、その意図に何らかの違和感を感じるならば、その人にとってその意図は苦痛となるでしょう。

わたしたちは2・11を迎えるに当たって、教会の重要な課題「信仰の自由」を高らかに宣言いたします。また、日本国憲法に保障された「宗教の自由」が堅持されるよう祈り求め、発言していきたいと思ひます。各地での集会の上に、主なる神の祝福を祈ります。

社会委員会 釜土達雄



最初の婦人宣教師
メアリー・エディ・キダー女史

日本で最初の女学校であるフェリス女学院は、1870 年 9 月、アメリカから来日した最初の婦人宣教師メアリー・エディ・キダーによって始められました。横浜の居留地 39 番（山下町）で医療活動をしていた長老派教会の医療宣教師ヘボン博士の施療所の一室で、同夫人の生徒たち女の子も含む数名を引き継いで英語などを教えたのがその始まりです。当時の日本は明治時代になってまだ 3 年目、近代化が始まったとは言え、キリスト教の信仰もまだ禁じられていた中、しかも女性が教育を受けることなどは想像もできない時に、キダーはキリスト教に基づく女子教育を始めたのです。

1834 年バーモント州ウォースボロに生まれたキダーは、十代の頃から海外伝道を希望していましたが、その夢が叶ったのは 35 歳の時でした。明治の終わり頃にプロテスタントの宣教師が相次いで来日しましたが、その一人であるアメリカのオランダ改革派教会

宣教師からの声 番外編

フェリス女学院創立者メアリー・エディ・キダーの歩み ー近代日本における女子教育の先駆者ー

田部井 善郎

(フェリス女学院中学校高等学校校長)

(のちの米国改革派教会) から派遣されたブラウン博士は、これからの近代日本にとっての女子教育の必要性を母国で説き、当時の改革派教会の外国伝道局に対して教師の派遣を要請しました。そして、当時プライベートスクールの教師であったキダーの篤い信仰と若い頃からの外国伝道への強い使命感を評価しての進言でした。

キダーの始めた小さな教室には、噂を聞いて女の子たちが集まるようになりました。中には、女性は勉強する必要があるという親を説得しながら勉強したいという希望を通した子もいました。やがて人数が増えてきたこともあって、当時の神奈川県副知事であった大江卓氏の理解を得て、当時紅葉坂にあった県の官舎に教室が移りました。一方、その間に、アメリカの教会から財政的な援助を受け、現在の山手 178 番地に本格的な寄宿舎のある校舎が建築されました。1875 年 6 月 1 日、新校舎の落成式が盛大に行われ、翌年には学校名も正式に「アイザック・フェリス・セミナリー」となりました。フェリスという校名は、当時日本の

近代化のために渡米した留学生や使節団などを受け入れ、またキダーをはじめとして多くの宣教師を海外に派遣していたアメリカの改革派教会の外国伝道局主事、アイザック・フェリス並びにジョン・フェリスの父子に因んで名付けられたものです。そしてそれ以降、本格的な学校となったフェリス女学院は、同じく改革派の婦人外国伝道局によって維持されるようになっていきます。

その教育理念は、キリスト教信仰に基づき、よき家庭人・社会人の育成、将来の教育を担う人材の養成、そしてそのために必要な高い知識と教養の習得でした。以来、フェリスからは日本の近代女子教育の創設期に活躍する多くの教育関係者が育ち、特に、現在の大学にあたる高等教育に関わる人たちが数多く活躍します。その教育理念どおり、キダーから始まった日本の女子教育は、さらにフェリスに学んだ卒業生たちによって大きく切り拓かれてい



ったのです。

キダーは、1873 年、同じく日本で伝道活動をしていた長老派の宣教師ローゼイ・ミラーと結婚します。改革派と長老派という立場を越えての結婚でしたが、その後ミラーは夫人の事業を深く理解し、自ら改革派に籍を移しました。やがて新校舎での教育は次第に評判が高くなり、日本各地から進んだ教育を受けるために女子たちが集まるようになりました。遠くは長崎から牧師の妻となるためにきた者、また進歩的な保護者の薦めもあって学びにきた生徒などもいました。

こうした献身的な努力でフェリス女学院を生み、その基礎をつくったキダーは、1881 年その運営を二代目校長ユージン・S・ブースに委ね、夫と共にキリスト教伝道者としての道を歩み始めました。とくに 1888 年から 1902 年までの岩手県盛岡での厳しい寒さの中での伝道は有名です。さらには夫妻で日本各地でキリスト教を伝えるかたわら、キダーは家庭や子供向けのキリスト教の話を掲載した小さな月刊誌『喜の音』を発行するなど、特に日本の女性と子供たちの地位向上に尽くしました。そして、1910 年 6 月、76 歳で東京で天に召されました。

キダーの日本における 41 年間にわたる足跡は、フェリス女学院の創立者としてだけでなく、一人の女性宣教師としての歩みと言えます。2009 年、横浜は開港 150 年を迎えました。それは日本のプロテスタント伝道 150 周年でもありました。そして 2010 年フェリス女学院は創立 140 周年を迎えましたが、それは日本の女子教育誕生 140 周年でもありました。

現在の日本の女子教育の礎が一人の若いキリスト教女性宣教師の篤い信仰と教育への情熱によってつくられたことを覚えるとともに、私たちフェリス女学院はそれを誇りとして、これからも継承していきたいと思っています。

月刊誌
喜の音(よろこびのおとづれ)

写真提供(2 枚):フェリス女学院

◆職種 日本基督教団と
キリスト教関係団体
が所有する会館の管
理事務 1 名

◆年齢 65 歳程度まで

◆勤務 8:00～16:30

◆休日 土・日、祝日

◆給与 18 万円以上、賞
与あり(詳細は要綱
による)

◆応募・問合せ
Tel 03-3202-1
6145

日本キリスト教会館
東京都新宿区西早稲
田 2-3-18 (東西
線早稲田駅、徒歩 5
分)

第 37 総会期第 1 回常議員会(12 月 20、21 日)において『救済対策基金』の設置に関する件が可決されました。この基金は諸教区内に大規模な自然災害が起こった時に備えて設置したもので、災害発生時の初動の救済金に充てられます。

この救済基金の運用規定も定められました。いま、その主たる内容を記すと次のとおりです。

○このたび設置された『救済対策基金』の資金は教団の『救済対策引当預金』に置くこと。

○災害発生後、直ちに総幹事が総

責任者となり、対策委員会を立ち上げる。なお、委員の選任は総幹事が当てること。

○大規模自然災害が起こった際、直ちに総幹事は当該教区との窓口となること。

○この基金が用いられる初動とは災害発生時から被災地の状況把握と情報収集、救済金の決定と執行までとする。

○この運用規程は 2010 年 12 月 21 日より実施されること。

○この救済対策基金が有効に用いられるよう皆様どうぞお祈り下さい。

(教団総幹事 内藤留幸)

救済対策基金の設置



松岡 洋子さん

イエスさまと共に なかまと共に歩む



能登川教会員。明るくてパワフルで食べることが大好き。

「人生を人にわけ与えてください」1991 年 12 月 22 日、受洗を祝って「福井達雨」と記された聖書は、私の大切な宝物です。松岡洋子さんはさらに語る。「私は小学生の時、両親が離婚し、母子家庭になったことで、様々な理不尽な経験をしました。その頃に読んだ『氷点』(三浦綾子著)の主人公陽子の心情に重ね合わせることで、どんなに苦しくても自分なりに歪まない生き方をしようとする、一人で力をいれ、心を硬くしながら生きていました。」

保母になりたいと進学したキリスト教保育専門学校に在学中、止揚学園の福井達雨先生の著書『非合理に不器用なありのままに』を読み、本の中の世界を知りたいという思いから、一年生の冬に初めて止揚学園を訪ねたことが、人生の転機となった。

「ある日、重い知的障がいをもつ仲間の降くんが、手作りの曲でフォークダンスを踊ろうと私に手を差し伸べてくれました。言葉で話すことの難しい降くんと手をつないだ時、その手の温もりを通して、『頑張らなくていいよ。ありのままでもいいんだよ。悲しみも苦しみも喜びも分けあって共に歩もうね』という心の声が聞こえてきたように思いました。私の心が開放された瞬間、それはまた、イエスさまが私の心に触れてくださったことを確信した瞬間でもありました」。松岡さんは今、止揚学園の大切な保母さんである。